

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要

第 118 号

平成29年10月

Bulletin of the Faculty of Education
Hirosaki University

No. 118

October 2017

弘 前 大 学 教 育 学 部

Hirosaki, Japan

目 次

長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物……………	郡 千寿子 (1)
―横山家文書からの報告―	
国語科で国語辞典を利用する前に考えるべきこと……………	平 井 吾 門 (9)
中等社会科教育と社会調査……………	高 瀬 雅 弘 (19)
―歴史・視座・実践―	
教科教育と教科専門を架橋する教育実習体制の構築……………	小 瑤 史 朗 (31)
―弘前大学教育学部社会科教育講座における教員養成の試み―	高 瀬 雅 弘 篠 塚 明 彦 小 岩 直 人 後 藤 雄 二 宮 崎 秀 一
土壌カビの簡便な増殖・観察法……………	岩 井 草 介 (41)
韓国における中学校科学教育の特色……………	佐 藤 崇 之 (47)
―現行カリキュラムおよび授業の分析をととして―	
H. リーマン「軽重法：楽節構造論」試訳 (2) ……………	朝 山 奈津子 (55)
「障害者アートの現在」とアール・ブリュットの動向 ……………	岩 井 康 頼 (67)
―障害のある人たちの芸術表現への取り組みとその可能性―	
濾殻による装飾紙の制作……………	関 典 子 (79)
―手製本における利用方法の一考察―	佐 藤 光 輝
終戦後の美術観賞教育と少女雑誌①……………	出 佳奈子 (85)
―1940年代後半の『少女倶楽部』における「教養としての美術鑑賞」	
学校教育下におけるスポーツ活動の「離脱」と「参加」についての検証……………	清 水 紀 人 (99)
積雪地の学校屋内環境におけるチューリップ水耕促成栽培の教材としての可能性……………	勝 川 健 三 (109)
	高 谷 治 男
中学校における教育実習（保健）が養護教諭養成課程に所属する学生に与える影響……………	原 郁 水 (115)
―教師効力感と実習ストレスに注目して―	古 田 真 司
養護教諭による教職員への健康教育に関する研究……………	金 谷 香 子 (121)
―保健通信の発行による意識変容に着目して―	太 田 誠 耕

養護教諭養成課程に在籍する女子大学生の食事と水分摂取に関する研究……………	尾崎 瑛 美 (133)
	葛西 敦 子
養護教諭のための高機能患者シミュレーターを用いた教育プログラムの開発……………	福田 博 美 (141)
―現職養護教諭における緊急時の脈拍観察に関する研修の提案―	藤井 紀 子
	小川 真由子
	林 さえ子
	植田 ひろみ
	三尾 弘 子
	水野 昌 子
	永石 喜代子
	葛西 敦 子
	佐藤 伸 子
	山田 玲 子
小学校道徳教育における道徳性発達の理論と教授法に関する試案……………	森本 洋 介 (149)
居場所がある／ないという意識に関する基礎的研究……………	安達 奈緒子 (159)
―性差・時期差, 精神的健康・心理的居場所感との関連, 時間的安定性―	安達 知 郎
韓国の大学生が捉える高校生期における「保健教師との関わり」……………	釜田 明 奈 (169)
	小林 央 美
草分京子さんから学ぶ教師の役割……………	中妻 雅 彦 (179)
弘前大学教育学部におけるフレンドシップ事業の概要と意義……………	吉崎 聡 子 (189)
―不登校支援活動を事例として―	豊嶋 秋 彦

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として各年度の10月及び3月の年2回とし、各号はA4版で約150ページとする。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて刷り上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは研究推進委員会が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が11ページ以上に及ぶ場合や、カラー印刷や図版の作製などに特別の経費を要する場合には、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は掲載された論文を電子化し、「弘前大学学術情報リポジトリ」に掲載して公開することができるものとする。

この規定は、平成20年4月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文等の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜等を含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるよう明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、紀要編集担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

朝 山 奈津子（代表）

武 内 裕 明

野 呂 徳 治

山 本 稔

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要
第118号
(2017年10月)

平成29年10月 6 日印刷
平成29年10月13日発行
編集兼発行者
弘 前 大 学 教 育 学 部
弘前市文京町 1 番地
電話 (0172) 36－2 1 1 1 (代)
印刷所 小 野 印 刷
弘前市富田町52
電話 (0172) 32－7 4 7 1 (代)

Effects of Practice Teaching of Health Education on School-Nursing Course Students	Ikumi HARA (115)
–A Focus on Efficacy of and Stressor during Teaching Practice–	Masashi FURUTA
Research on Health Guidance for School Personnel by <i>Yogo</i> Teachers:	Koko KANAYA (121)
Special Focus on Altered Consciousness brought about by Healthcare Newsletters	Seikou OHTA
Diet and Water Absorption of Female College Students	Emi OZAKI (133)
Enrolled in School Nurse Teacher Training Divisions	Atsuko KASAI
Development of an Educational Program Using a Highly Fidelity Human	Hiromi FUKUDA (141)
Patient Simulator for <i>Yogo</i> Teachers	Noriko FUJII
A Proposal of Training on Pulse Observation in Case of Emergency for	Mayuko OGAWA
Current <i>Yogo</i> Teachers	Saeko HAYASHI
	Hiromi UEDA
	Hiroko MIO
	Masako MIZUNO
	Kiyoko NAGAISHI
	Atsuko KASAI
	Nobuko SATO
	Reiko YAMADA
A Draft Proposal about Moral Education Method in Elementary School:	Yosuke MORIMOTO (149)
Focusing on Theory of Moral Development	
The basic property of the consciousness of ‘ I have IBASHO ’ or ‘ I don’t have IBASHO ’ ...	Naoko ADACHI (159)
	Tomoo ADACHI
A Research about Concerning of Health teacher on high school students	Akina KAMATA (169)
in University Students in Korea	Hiromi KOBAYASHI
The Role of Teachers: Learn from Kusawake Kyoko's Teaching Practice	Masahiko NAKATSUMA (179)
A Summary and Significance of the Friendship Project in Faculty	Satoko YOSHIZAKI (189)
of Education, Hirosaki University	Akihiko TOYOSHIMA
Case Study of the Support for non-attendance at school	

CONTENTS

Investigation report on "OURAIMONO" documents	Chizuko KOHRI (1)
of Nagaoka City Library possession:	
A study of documents transmitted to the YOKOYAMA Family	
Things to Think Before Using Japanese Language Dictionary in Japanese Language Education ...	Amon HIRAI (9)
How Social Research contribute to Secondary Social Studies Education	Masahiro TAKASE (19)
–Focusing on History, Concepts and Practice–	
Build a bridge between Teaching Methodology and Subject Studies for effective ...	Fumiaki KODAMA (31)
Teacher Training of Social Studies:	Masahiro TAKASE
Focusing on the Continuous Teaching Practice Program at Junior High School	Akihiko SHINOZUKA
	Naoto KOIWA
	Yuji GOTO
	Shuichi MIYAZAKI
Simple Methods for Growth and Observation of Soil Filamentous Fungi	Sosuke IWAI (41)
Characteristics of Lower Secondary School Science Education in South Korea	Takayuki SATO (47)
By Analysis of Present Curriculum and Class Activities	
H. Riemann, „Metrik. Lehre vom musikalischen Satzbau“ aus	Natsuko ASAYAMA (55)
<i>System der musikalischen Rhythmik und Metrik</i> (1903):	
Versuch einer japanischen Übersetzung (2)	
‘The Current State of Art of the Handicapped’ and Some Trends in Art Brut	Yasunori IWAI (67)
–Handicapped People’s Approaches to Artistic Expression and their Potential–	
Decorative paper production by Koshigara	Noriko SEKI (79)
–A study of how to use in hand bookbinding–	Mitsuteru SATO
The education through appreciating of works of the fine arts	Kanako IDE (85)
and the girl’s magazine after the world war II ①	
–“The appreciation of works of the fine arts as the cultural education”	
in the <i>Shōjo club</i> in the second half of 1940’s–	
Inspection about participation in or withdrawal from sports activities regarded ...	Norihito SHIMIZU (99)
as a part of school education	
Possibility of Teaching Materials using Hydroponically Forced	Kenzo KATSUKAWA (109)
Tulip into the Indoor Environment of School in Snowy Area	Haruo TAKAYA